



平成 29 年 7 月 13 日(水)

杉並区立八成小学校

図工専科 伏見 なな子

浅香 和彦

7 月も半ばとなり、待ちに待った夏休みももうすぐです。今回の図工室だより展覧会特別号では、1・3・5 年生の制作の様子を紹介します。

図画工作のめあては、自分の目（め）で見る・自分の頭（あ）で考える・自分の手（て）で作り出すということです。発想を具現化することを通して、自分で問題を解決していく力を育てる教科だと思います。その中で、失敗から学んでいくこと。将棋の加藤九段が、敗れて連勝記録の途絶えた藤井四段に「人生も、将棋も、勝負はつねに負けた地点からはじまる」という言葉を贈っていました。失敗は成功のもと、試行錯誤することから次のステップに進んでいけるものだと思います。子どもたちの作品には、そんな試行錯誤した時間がいっぱい詰まっています。作品をご覧になりながら、そんな時間も共有していただければ幸いです。

(浅香)

■ 1年 わたしのてがた（絵や立体に表す活動）

一学期のはじめにクレヨンの使い方の練習として丸や線を描きました。その紙に一年生最初の手の大きさを残そうと、手の形を取り、ハサミを使って切りました。手の周りは、透明マジックを使って自分の好きなもので飾りました。



■ 1年 わたしの？かお その1（絵や立体に表す活動）

色画用紙を手でもんでもくしゃくしゃにして、指を使って皮をむくように一周ちぎって不定形をつくります。その形に、やはり手でちぎって髪の毛や目鼻口をつけて顔を作りました。ちぎった紙から生まれた温かみのある表情になったかと思います。自分の名前も、顔のまわりに色や書く場所を工夫して書き加えました。



■ 1年 わたしの？かお その2（絵や立体に表す活動）

軽量粘土で展覧会の作品を作る前のウォーミングアップとして、小さな自分の顔を作りました。粘土を伸ばしたり丸めたり、色の違う粘土を合わせたりと、遊びながら粘土に慣れ、作品ができればと取り組みました。透明のテグスをつけてアクセサリーにもなるようにしました。本人に似ていても、似ていなくても、かわいい顔ができたと思います。



■3年 わたしの名前&手形（絵や立体に表す活動）

牛乳に白い絵具を混ぜた液に自分の手を浸し、手形を押します。白い紙に白い手形で、何をしたのか良く分からなかったと思います。手形の横に、おうちの方が愛情込めてつけてくれた自分の名前からひと文字選んでデザイン的に書きました。普段は丁寧にきれいに書くことが主ですが、今回は形が崩れたり、装飾があったり、墨がかくれていたり・・・それぞれ個性的に表現できたと思います。その作品の裏側から絵の具を薄く溶いたもので色をつけていきました。牛乳のタンパク質が固まって手形の白には色が付きにくくなり手の形が浮き上がってきます。本来は牛乳だけの方がおもしろいのですが、今回は安全策で絵の具も混ぜました。牛乳だけだと、光が通るのをあまり邪魔しないので、筒状にしてランプシェードにしてもきれいです。



後日、学校HPにもカラーの図工室だよりを掲載しますので、ぜひご覧ください。

← ぱち は、名前を隠すのに活躍してくれています。

■5年 静物をえがく（絵や立体に表す活動）

西洋における静物画の歴史は古く、ポンペイの壁画でも発見されています。絵画の発展とともに静物画も写実性を増し、近代オランダで描かれた写真のような静物画を見て5年生も恐れおののいていました。



17世紀オランダ絵画



ピカソ「静物」（1944年）

しかし、その後ピカソやセザンヌ、ルドンなどの静物画を見て、静物画は物をただリアルに描く絵ではなく、物を使って自分の作風やテーマを表す「画家の小宇宙」であることを知りました。5年生も、まずは自分の作品の世界観を決める背景作りをしました。その上に、たくさん並んだモチーフの中から好きなものを選んで、自分なりのタッチで描き、世界をつくり上げていきました。



私はあえて、背景は一色で…！美朝子先生のバイオリン、輪郭線を強調して描いていくよ。

画面から飛び出して、大きくのびのび描かれているのは吉田先生のギター。



みんな、美人に描いてね！私はミロのヴィーナスの頭部像よ。



図工室の中央に並べられた静物を取り囲んで、みんな真剣に見て描いています。

■5年 アラベスク版画（絵や立体に表す活動）

アラベスク模様とは、イスラム圏で発達した幾何学模様です。寺院や宮殿などが模様で埋め尽くされ、神聖な雰囲気を醸し出します。

5年生も、「同じ形を何度も印刷できる」という版画の大きな特徴を使って、オリジナルの模様づくりに挑戦。最初はどんな模様になるのかドキドキしながら恐る恐る印刷していましたが、次第に皆「そういうことか！」と気付きを得て、どんどん発展的な模様をつくりあげていきました。



版木は、完成作品の4分の1サイズ。この版木を、回転せたり、並列せたりして刷っていくよ。





印刷は魂を込めて…バレンで強く刷る！しっかりインクがつきますように！すれませんように…



インクの色の調節も、重ねる色の組み合わせも、自分のセンスで決めていく！！



私は最後の仕上げの三版目の色を重ねるところ。絶対失敗できない、緊張の一瞬です…！

■5年 ムーブマン（絵や立体に表す活動）

まず、人類の誕生とともに生まれた「人体の彫刻」についての歴史を5年生に紹介しました。そして5年生も、「人間の一瞬の動き」を彫刻に表すことに挑戦。材料の発泡スチロールは成形がとても簡単で、また軽いので重力に負けて型崩れしてしまうこともなく、木や粘土で作るよりも自由で大胆なポーズを表すことができます。

体が大きく傾いていたり宙に浮いていたりと、「えっ、そんな瞬間を彫刻に！？」と言いたくなってしまうほど、一人一人がユーモラスで難しいポーズを考案。「この動きの時、手足はどうなっていたかな…」「関節をどの方向で曲げようかな…」と実際に体を動かしてみたり、関節を付け替えてみたりしながら試行錯誤してポーズを組み立てていきました。



飛び箱の上にびょーんと飛び乗った勢いのあるポーズ！



古代ギリシャの「円盤投げ」の彫刻。今にも動き出しそうな一瞬の姿を捉えています。

手前にあるこのハシゴは？
作品を見てのお楽しみ！



私は元気いっぱい走っているところ。腕や脚の曲げ方をよく考えてつくります。



最後は黒と銀のスプレーをかけてブロンズ像風に仕上げ。陰影ができるので、動きが見えやすくなる効果があります。

